

植物新品種の保護に関する研究会
第3回自家増殖に関する分科会
配付資料一覧

[議事次第](#)

[委員名簿](#)

[資料1:植物新品種の保護に関する研究会「自家増殖に関する分科会」報告\(案\)](#)

[参考:関係資料](#)

植物新品種の保護に関する研究会
第3回自家増殖に関する分科会
議事次第

平成16年11月17日10時～
農林水産省第2特別会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

育成者権の効力の例外とされる農業者の自家増殖の範囲
の在り方について

4 閉 会

植物新品種の保護に関する研究会

自家増殖に関する分科会委員名簿

岡田 篤	株式会社福島天香園代表取締役社長
小林 正勝	雪印種苗株式会社常務取締役
床尾 力哉	全国農業協同組合連合会長野県本部きのこ課技術審議役
土肥 一史 (座長)	国立大学法人一橋大学大学院国際企業戦略科教授
中村 祐三	全国農業協同組合中央会常務理事
野原 宏	野原種苗株式会社代表取締役社長
原 拓生	全国農協青年組織協議会参与、果樹生産者
福井 陸夫	株式会社北研食用菌類研究所顧問
矢花 公平	矢花公平法律事務所弁護士
渡辺 康宏	社団法人日本花き生産協会理事、きく生産者

(五十音順、敬称略)

植物新品種の保護に関する研究会「自家増殖に関する分科会」報告（案）

育成者権の効力の例外とされる農業者の自家増殖の範囲の在り方について

「植物新品種の保護に関する研究会中間とりまとめ」において、自家増殖に育成者権の効力が及ぶ植物の具体的な範囲については、育成者権者、農業者等の意見を聴取し、慎重な検討が必要であるとされたことを受け、本分科会では、10月から11月にかけて3回会合を開催し検討した結果、自家増殖に育成者権の及び植物の範囲決定の考え方及び今後のとり進め方について、以下のとおりとりまとめた。

1 基本的考え方

- (1) 新品種の育成者の正当な利益を確保し、新品種の育成を促進して我が国農業の国際競争力の強化を図るためには、農業者の自家増殖について、農業生産現場への影響に配慮しつつ、育成者権の効力の及ぶ範囲を拡大し、将来的には、自家増殖には原則として育成者権を及ぼすことを検討すべきである。
- (2) しかしながら、現状においては、多くの農業者にとって、自家増殖に関する許諾についての認識が十分でないため、自家増殖に育成者権の効力が及ぶこととした場合には、大きな混乱が想定される。また、農業者側には、種苗の購入費等の増大により農業経営が圧迫されることや安定的な種苗供給に支障が生じることについて、強い懸念がある。
さらに、育成者権者側において、自家増殖に関する許諾料の徴収をはじめ、権利行使の方策が確立されていない場合には、制度の実効性が確保されない。
- (3) このため、当面は、自家増殖に関する許諾料の徴収等の契約が定着した植物、及び従来自家増殖の慣行のほとんど存在しなかった植物について、順次、育成者権の効力が自家増殖に及ぶ植物として追加していくことが適当であると考えられる。
- (4) また、自家増殖に関する許諾についての農業者の認識の定着を図るためには、自家増殖に関する許諾料の徴収等の契約の普及が重要であるので、農林水産省、育成者権者、農業団体等の関係者が連携して、新品種保護制度の意義や自家増殖に関する契約についての正確な認識の浸透に努めるとともに、農業者の懸念を払拭し、新品種の育成・利用から得られる利益の分配等が育成者権者と農業者の間で適切に行われるような環境整備を検討していく必要がある。

2 自家増殖に育成者権を及ぼすべき植物

(1) 植物の繁殖方法の別で考えると、種子繁殖植物については、通常の圃場で自家増殖を繰り返すうちに品種純度の低下や品種特性の変化が起こるため、一定の期間のうちに種子の更新が必要であり、その際にロイヤリティー回収の機会があるが、これに対して、栄養繁殖植物は、比較的短期間に大量に同品質の種苗を生産することが可能であり、育成者権者の正当な利益を脅かすおそれ大きい。

このため、自家増殖に育成者権の効力の及ぶ植物の範囲を拡大するに当たっては、まず、栄養繁殖植物から順次拡大していくことが必要である。

(2) さらに、上記1(3)の考え方に沿って、当面、栄養繁殖植物（経済栽培において、栄養繁殖と種子繁殖の両方が行われている植物を含む。）のうち、以下のA～Cに該当する植物については、①種苗の安定供給が確保されるか、及び②農業経営を圧迫するような種苗購入費等の増大が起こらないかを吟味し、順次、自家増殖に育成者権を及ぼすべきである。

A：自家増殖に関する契約が定着している植物

現行種苗法においては、契約で別段の定めをした場合には、育成者権の効力が自家増殖にも及ぶこととされており、観賞用植物を中心に、育成者権者と新品種の利用者の間で、自家増殖に関する契約を結ぶことが増加してきている。

このような自家増殖に関する契約が定着している植物については、育成者権者の許諾なしに自家増殖が行われることが、ほとんど無くなっていると考えられる。

現行制度においても、既に、自家増殖に関する契約が定着している栄養繁殖植物を省令で指定して、自家増殖に育成者権の効力が及ぶこととしており、今後は、契約の定着状況を定期的に把握し、その状況に応じて、順次、自家増殖に育成者権の効力の及ぶ栄養繁殖植物を追加することを検討する必要がある。

B：従来我が国ではほとんど経済栽培が行われていなかった植物

従来我が国でほとんど経済栽培が行われていなかった植物については、経済栽培のために行う自家増殖の慣行もほとんど存在しなかったため、新品種育成者の正当な利益の確保のために、自家増殖に育成者権の効力を及ぼしても、農業生産現場が混乱したり、農業経営を圧迫することは、ほとんどないと考えられる。

平成10年の改正以前の種苗法においては、我が国で経済栽培が行われ、新品種の出願の見込まれる植物を政令で指定して保護対象としていたため、この時に保護対象となっていなかった栄養繁殖植物で、その後新たに品種登録の出願が行われている

ものについては、我が国における従来の経済栽培の実績を吟味して、ほとんど実績がないものについては、その自家増殖に育成者権の効力を及ぼすことを検討すべきである。

また、今後、新たに品種登録の出願が行われる栄養繁殖植物についても、同様に経済栽培の状況を吟味し、我が国においてほとんど経済栽培が行われていないものについては、自家増殖に育成者権の効力を及ぼすことを検討すべきである。

C：新たに栄養繁殖による自家増殖が開始されている植物

従来、経済栽培においては種子繁殖による増殖のみが行われていた植物の中にも、高品質な品種を安定的・効率的に増殖するために、栄養繁殖による増殖が新たに行われている場合がある。このような場合に、自家増殖についても、新たに栄養繁殖によって行われると、今後、育成者権者の正当な利益を損ねる可能性が大きい。

このような植物については、栄養繁殖による自家増殖が従来行われていなかったもので、自家増殖に育成者権の効力を及ぼすことを検討すべきである。

具体的には、上記の新規植物の取扱いに関する考え方にならって、平成10年の種苗法改正の前には栄養繁殖性の品種の出願が無く、その後、新たに栄養繁殖性の品種の出願が始まった植物を対象として検討することが考えられる。

また、一部では、種子繁殖用の品種においても、新たに栄養繁殖が行われている場合もあるので、その実態を調査し、必要に応じて、自家増殖に育成者権を及ぼすことを検討すべきである。

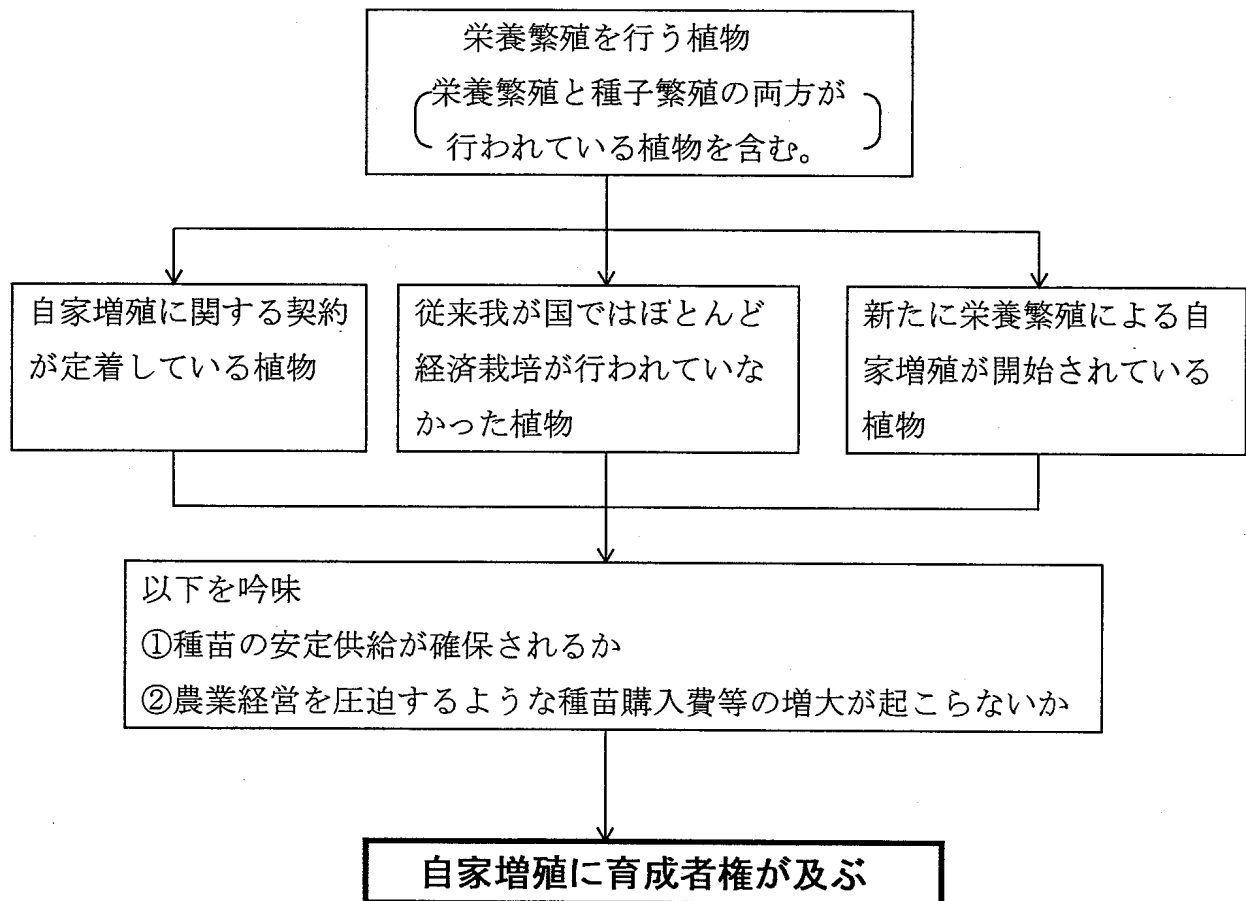
なお、いずれの場合も、種子繁殖による自家増殖の慣行が存在する可能性があるため、種子繁殖性の品種のほとんどが交雑品種（F₁品種）である場合など、自家増殖の慣行がほとんどない場合に限って、自家増殖に育成者権の効力を及ぼすべきである。

(表) 現在の自家増殖の扱いと今後あるべき自家増殖の扱い

	自家増殖の扱い	
	現 在	今 後
栄養繁殖をする植物		
上記A～Cに該当する植物		
現行の省令指定植物（23種類）	育成者権が及ぶ	育成者権が及ぶ
現行の省令指定植物以外	育成者権は及ばない	育成者権が及ぶ
上記A～Cに該当しない植物	育成者権は及ばない	育成者権は及ばない
栄養繁殖をしない植物	育成者権は及ばない	育成者権は及ばない

注：この表の整理にかかわらず、契約で別段の定めをした場合は、自家増殖に育成者権が及ぶ。

(図) 今後、自家増殖に育成者権の効力を及ぼすことを検討すべき植物の範囲



注：この図の整理にかかわらず、契約で別段の定めをした場合は、自家増殖に育成者権が及ぶ

「植物新品種の保護に関する研究会中間とりまとめ」においては、育成者権の効力の及ぶ範囲の例外としての自家増殖の範囲の規定の仕方として、

①自家増殖には原則として育成者権の効力が及ぶこととし、自家増殖に育成者権者の及ばない植物を例外として列挙して定めるべき。

②育成者権の効力の及ぶ植物を列挙して定めている、現行の仕組みを維持すべき。

との二つの意見を並記している。

現行の規定では、新たに品種登録の出願が始まる植物については、省令の改正を行わない限り、自動的に自家増殖に育成者権が及ばないこととなるため、上記の考え方に従うと、このような新規の植物のうち、我が国で経済栽培がほとんど行われておらず、農業生産現場に混乱をもたらさないものは、順次、省令を改正して、自家増殖に育成者権の効力が及ぶ植物に追加していくことが必要である。

品種登録制度の対象植物のうち、自家増殖に育成者権の効力の及ぶ植物の占める割合は、現在のところ極めてわずかであるので、当面は、現行制度の枠組みの中で、自家増殖に育成者権の効力の及ぶ植物を順次追加することが妥当ではあるものの、将来的には、農業生産現場に混乱をもたらさないことを前提に、①の方法によって規定することを検討する必要がある。

3 今後のとりすすめ方

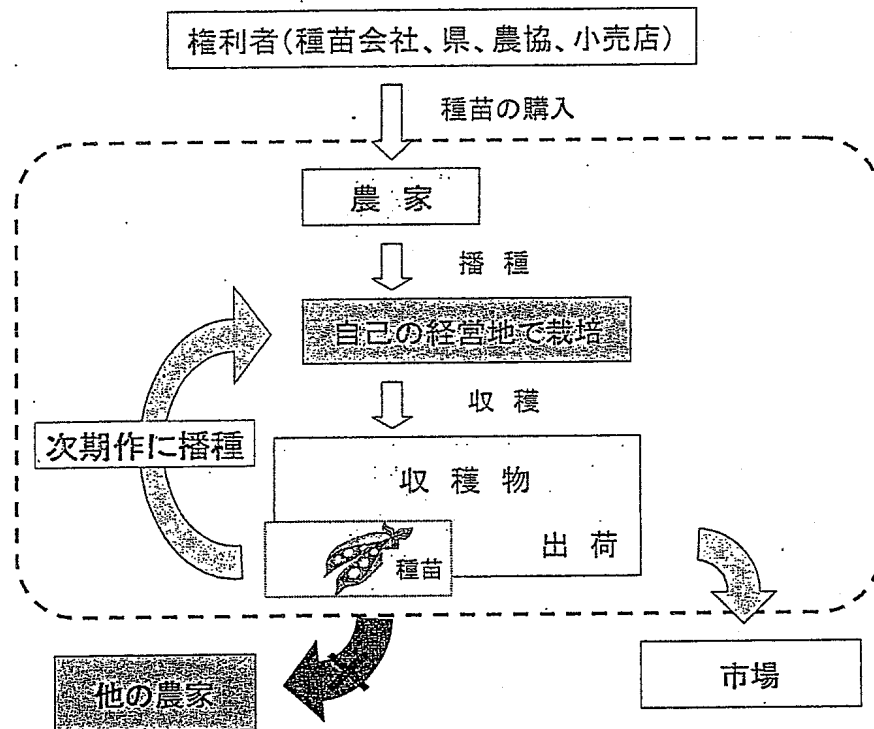
農林水産省、育成者権者、農業団体等からなる検討の場を設定し、平成17年度以降毎年度会合を開催し、以下の検討を行う。

①上記1(4)の自家増殖に関する契約についての環境整備等の推進方策の検討

②上記2の考え方に沿った、自家増殖に育成者権が及ぶ植物の追加の検討

農業者の自家増殖について

- ・ 農業者が、育成者権者等から譲渡された登録品種等の種苗を用いて収穫物を得、その収穫物を自己の農業経営において、さらに種苗として用いる場合には、育成者権の効力は及ばない。
- ・ ただし。
 - ①省令で定める栄養繁殖植物（23種）の種苗を用いる場合
 - ②契約で別段の定めをした場合は、この限りでない。



(自家増殖が禁止されている栄養繁殖植物)

草花類	アルストロメリア属、オドントグロッサム属（アスパシア属、アダ属、オンシジウム属、コクリオダ属、ゴメサ属、コンパレチア属、ブラシア属、ミルトニア属又はロドリゲシア属との交雑種を含む。）、オンシジウム属（アスパシア属、イオノブシス属、コクリオダ属、コンパレチア属、トリコケントルム属、ブラシア属、レオキルス属又はロドリゲシア属との交雑種を含む。）、かすみそう属、カトレア属（ソフロニチス属、ブラサボラ属又はレーリア属との交雑種を含む。）、ガーベラ属、カラココエ属、クレマチス属、ジゴカクタス属、シンビジウム属、セントポーリア属、チューリップ属、デンドロビウム属、なでしこ属（カーネーション種（なでしこ属に属する他の種との交雑種を含む。）を除く。）、ペチュニア属、ペラルゴニウム属、ほうせんか属、かきつばた種及びカーネーション種（なでしこ属に属する他の種との交雑種を含む。）
鑑賞樹	あじさい属、ばら属及びポインセチア種
きのこ類	しいたけ種

諸外国における農民に認められた自家増殖の範囲と関連規定

国名	可否	自家増殖の範囲	備考
UPOV1991 年条約	加盟国の任意	対象作物の限定なし。ただし、「合理的な範囲内で、かつ、育成者の正当な利益を保護することを条件」とする。	合理的な範囲内で、かつ、育成者の正当な利益を保護することを条件として、農業者が、保護される品種等を自己の経営地において栽培して得た収穫物を、自己の経営地において増殖の目的で使用することができるようにするために、いかなる品種についても育成者権を制限することができる。(UPOV1991年条約 Article 15(2))
オランダ	不可	育成者権の例外に農民による自家増殖は含まれていない。	
EU	一部可	対象作物(別紙)を限定して自家増殖を許容。(許容するための条件は右記)	条件: 自家増殖した場合でも農家は権利者に支払う義務あり(ただし正規に購入した場合の許諾料より安いこと)。小農は支払い義務なし(小農の定義は別途規定)。
ドイツ	一部可	対象作物(別紙)を限定して、右記の条件を満たした場合、自家増殖を許容。	条件: ・自家増殖した農民は権利者に相当の対価を支払うこと ・権利者に自家増殖した種苗の量を通知すること
米国(PVPA)	可	自己の圃場に播種する目的で種苗を保存することは権利侵害とならない。	対象: 有性繁殖植物及び塊茎繁殖植物
米国(植物特許)	不可	当該品種を無性繁殖させる行為は特許権者の許諾を要する。	対象: 無性繁殖植物(塊茎繁殖植物及び野生種を除く)
豪州	制限可	農民の自家増殖を禁止する種を規定できる。	現在のところ規定を作成してないため、自家増殖は可能。
韓国		農林大臣は農家の自家増殖に関し育成者権を制限可能。	

(別紙)	EUにおける自家増殖が可能な種一覧	ドイツにおける自家増殖が可能な種一覧
飼料用作物	<p>Cicer arietinum L. ヒヨコマメ Lupinus luteus L. ハウチワマメ (キバナルピナス) Medicago sativa L. ムラサキウマゴヤシ (アルファルファ) Pisum sativum L. (partim) エンドウ (Field Pea) Trifolium alexandrinum L. エジプトクローバー Trifolium resupinatum L. ペルシアクローバー Vicia faba L. ソラマメ Vicia sativa L. オオキハズエンドウ Lolium multiflorum イタリアンライグラス (ポルトガルのみ)</p>	<p>Lupinus luteus L. ハウチワマメ (キバナルピナス) Medicago sativa L. ムラサキウマゴヤシ (アルファルファ) Pisum sativum L. エンドウ Trifolium alexandrinum L. エジプトクローバー Trifolium resupinatum L. ペルシアクローバー Vicia faba L. ソラマメ Vicia sativa L. オオキハズエンドウ</p>
穀物	<p>Avena sativa L. エンバク Hordeum vulgare L. 大麦 Oryza sativa L. 稲 Phalaris canariensis L. カナリアクサヨシ Secale cereale L. ライムギ X Triticosecale Wittm. ライコムギ Triticum aestivum L. emend. Fiori et Paol. コムギ Triticum durum Desf. デュラムコムギ Triticum spelta L. スペルトコムギ</p>	<p>Avena sativa L. エンバク Hordeum vulgare L. 大麦 Secale cereale L. ライムギ x Triticosecale Wittm. ライコムギ Triticum aestivum L. emend. Fiori et Paol. コムギ Triticum durum Desf. デュラムコムギ Triticum spelta L. スペルトコムギ</p>
バレイショ	Solanum tuberosum L. バレイショ	Solanum tuberosum L. バレイショ
油糧・繊維作物	<p>Brassica napus L. (partim) スウェーデンカブ Brassica rapa L. (partim) カブ Linum usitatissimum - linseed with the exclusion of flax. アマ (繊維用のアマ (Fiber Flax) を除く)</p>	<p>Brassica napus L. (partim) ナタネ Brassica rapa L. var. silvestris (Lam.) カブの一種 Linum usitatissimum L. Flax アマ</p>

自家増殖の制限状況について

全育成者権者に対するアンケート
(平成16年4月～5月)

種苗法施行規則で自家増殖禁止植物として指定されているものは除いた。

	種類	権利者数	品種数	総回答数	制限あり	制限なし	場合による	制限割合
食用作物	あずき	2	5	1		1		0%
	稲	43	226	35	7	26	2	20%
	いんげんまめ	4	9	3		3		0%
	えんどう	2	2	2		2		0%
	えん麦	1	5	1		1		0%
	大麦	6	21	6		6		0%
	かんしょ	4	17	3	1	2		33%
	小麦	6	35	6		6		0%
	しかくまめ	1	1	0				
	そば	4	7	4		3	1	0%
	ソルガム	2	11	1		1		0%
	大豆	14	55	13	1	12		8%
	とうもろこし	2	22	1		1		0%
	はとむぎ	2	4	2		2		0%
	ばれいしょ	6	33	6	1	5		17%
	べにばないんげん	1	1	1		1		0%
らっかせい	1	1	1		1		0%	
食用作物合計		101	455	86	10	73	3	12%
工芸作物	いぐさ	2	2	2		2		0%
	おたねにんじん	2	2	1		1		0%
	桑	3	15	3		3		0%
	こんにやく	1	3	1		1		0%
	さとうきび	2	4	2		2		0%
	せんぶり	1	1	1		1		0%
	たばこ	1	5	1	1			100%
	茶	7	23	4	1	3		25%
	てんさい	1	10	1		1		0%
	とりかぶと	1		1	1			100%
	なたね	3	7	2		2		0%
	はっか	1	2	0				
ラベンダー	1	1	1		1		100%	
工芸作物合計		26	75	20	4	16	0	20%
野菜	アスパラガス	3	2	3	1	2		33%
	いちご	28	47	27	4	22	1	15%
	うど	1	1	1		1		0%
	かぶ	3	4	2		2		0%
	かぼちゃ	4	9	3	1	2		33%
	からしな	3	4	3		3		0%
	キャベツ	4	5	4		4		0%
	きゅうり	3	4	2	1	1		50%
	ごぼう	2	2	1		1		0%
	在来なたね	6	6	5		5		0%
	しそ	2	4	2		2		0%
	しゅんぎく	1	1	1		1		0%
	しょうが	2	2	2		1	1	0%
	すいか	2	2	2		1	1	0%
	そらまめ	3	7	3		3		0%
	だいこん	5	7	5		5		0%
	たまねぎ	4	18	3		3		0%

	種類	権利者数	品種数	総回答数	制限あり	制限なし	場合による	制限割合
	とうがらし	1	2	1		1		0%
	トマト	6	34	4	1	3		25%
	ながいも	1	1	1		1		0%
	なす	4	5	4	1	3		25%
	にら	2	5	2		2		0%
	にんじん	1	1	1		1		0%
	ねぎ	3	4	2	1	1		50%
	はくさい	2	3	1		1		0%
	はす	3	29	3		3		0%
	パセリ	1	1	1		1		0%
	ピーマン	1	1	1		1		0%
	ふき	1	1	1		1		0%
	ブロッコリー	1	1	1		1		0%
	みつば	1	1	1		1		0%
	メロン	11	21	9	1	8		11%
	やまのいも	7	9	6	1	5		17%
	やまらっきょう	1	1	1	1			100%
	ゆうがお	1	1	1		1		0%
	らっきょう	1	2	1	1			100%
	レタス	5	15	4	1	3		25%
	わけぎ	1	1	1		1		0%
	わさび	1	1	1		1		0%
野菜合計		132	265	117	15	99	3	13%
飼料作物	あかクローバー	2	3	2		2		0%
	アルファルファ	2	3	2		2		0%
	イタリアンライグラス	3	5	3		3		0%
	オーチャードグラス	1	5	1		1		0%
	ギニアグラス	1	2	1		1		0%
	クリーピングベントグラス	1	2	1		1		0%
	しば	5	8	4		4		0%
	しろクローバ	1	2	1		1		0%
	チモシー	2	4	2		2		0%
	トールフェスク	1	1	1		1		0%
	ペレニアルライグラス	2	2	2		2		0%
	メドウフェスク	1	2	1		1		0%
飼料作物合計		22	39	21	0	21	0	0%
観賞用草花	アイリス	1	1	1		1		0%
	アサリナ	1	1	1	1			100%
	アスター	3	28	2		2		0%
	あまどころ	1	1	0				
	あまもどき	1	9	1	1			100%
	アマリリス	1	10	1	1			100%
	アンズリウム	1	1	0				
	エピデンドラム	1	2	0				
	おうごんかずら	1	6	1		1		0%
	オキザリス	1	5	1		1		0%
	オステオスペルマム	3	8	2	2			100%
	オランダかいり	3	2	1		1		0%
	カルミア	1	1	1		1		0%
	カンパニュラ	4	12	3	2	1		67%
	きく	21	780	19	3	16		16%
	きんぎょそう	3	21	2	1		1	50%
	くささんだんか	2	10	1	1			100%
	グラジオラス	2	11	2	1	1		50%
	くんしらん	1	1	1	1			100%
	けいとう	2	7	2	1	1		50%
	コスモス	3	5	3	1	2		33%
	コリウス	1	4	1		1		0%
	さくらそう	1	1	1	1			100%

種類	権利者数	品種数	総回答数	制限あり	制限なし	場合による	制限割合
サンギイルパ テヌイフォリア	1	3	0				
しおん	6	10	4	1	3		25%
シクラメン	7	28	4	4			100%
シネラリア	2	17	1	1			100%
しらん	1	1	1		1		0%
スイトピー	3	6	3		3		0%
スカビオサ	1	2	1	1			100%
スターチス	7	85	7	5	1	1	71%
ステラ コルダータ	1	1	1	1			100%
ストック	6	55	5	2	3		40%
すべりひゆ	2	18	2	1	1		50%
せんにちこう	1	1	1		1		0%
ソリタゴ	1	0	1			1	0%
ダリア	3	19	3	3			100%
だんぎく	1	1	1	1			100%
ディアスキア	1	2	1	1			100%
ティサ	1	1	0				
デルヒニウム	8	28	6	4	2		67%
トルコぎきょう	6	18	4	1	3		25%
トレニア	1	14	1	1			100%
ネメシア			0				
パーペナ	1	32	1	1			100%
パンジー	2	4	2	1	1		50%
ひおうぎ	1	3	1	1			100%
ヒペリクム	1	0	1	1			100%
ひまわり	3	3	2	1	1		50%
ひやくにちそう	1	3	1		1		0%
ひるざきつきみそう	1	2	1		1		0%
ピンカ	4	26	3	1	2		33%
ファレノプシス	5	12	3	2	1		67%
フクシア	2	14	2	2			100%
フリーセア	1	2	1	1			100%
フロックス	1	2	1	1			100%
ベゴニア	2	13	2	1	1		50%
ペロニカ	2	3	2	1	1		50%
ほととぎす	1	1	1	1			100%
マーガレット	3	9	3	2	1		67%
みやこわすれ	2	4	0				
むぎわらぎく	1	5	0				
ユーホビア レウコケファラ	1	1	1		1		0%
ゆきのした	1	1	0				
ゆり	13	40	12	7	5		58%
エリオプス ペクティツス	1		1		1		0%
ラナンキュラス	1	15	1	1			100%
ランタナ	1	1	1	1			100%
りんどう	14	67	14	9	5		64%
レケナウルティア	1	5	0				
ロードヒポクシス	1	2	1		1		0%
われもこう	1	2	1		1		0%
観賞用草花合計	188	1509	153	79	71	3	52%
藻類等	すさひのり	1	1	1			100%
藻類等合計	1	1	1	1	0	0	100%
きのこ	あらげきくらげ	1	2	1	1		100%
	うすひらたけ	1	1	0			
	えのきだけ	5	7	3	1	2	33%
	エリンギ	4	7	2	1	1	50%
	なめこ	3	5	3	2	1	67%
	はたけしめじ	3	3	2	1	1	50%
	ひらたけ	2	4	2	2		100%

	種類	権利者数	品種数	総回答数	制限あり	制限なし	場合による	制限割合
	ぶなしめじ	6	29	4	2	2		50%
	まいたけ	2	3	2	1	1		50%
	やなぎまつたけ	2	3	2	1	1		50%
きのこ合計		29	64	21	12	9	0	57%
果樹	うめ	3	6	3		3		0%
	おうとう	8	17	8		8		0%
	かき	6	12	6	1	5		17%
	からたち	1	1	0				
	かんきつ	16	45	13	2	10	1	15%
	キウイフルーツ	2	3	2		2		0%
	くり	4	5	4		4		0%
	くろみのうぐいすかぐら	1	1	1		1		0%
	さるなし	2	2	2		2		0%
	なし	14	27	13	1	12		8%
	パインアップル	1	2	1		1		0%
	ばんれいし	1	1	1			1	0%
	びわ	3	5	2		2		0%
	ぶどう	16	37	14	2	10	2	14%
	ブルーベリー	2	6	2		2		0%
	もも	17	39	15		14	1	0%
	りんご	21	53	19	3	15	1	16%
果樹合計		118	262	106	9	91	6	8%
鑑賞樹	あせび	1	1	1	1			100%
	いとすぎ	1	1	1		1		0%
	いぬまき	1	1	0				
	えにしだ	2	16	0				
	コルヌス	1	5	1	1			100%
	さくら	5	6	5	1	4		20%
	さるすべり	2	11	2	1	1		50%
	しきみ	1	1	1		1		0%
	しゃくなげ	1	1	0				
	じんちようげ	1	1	0				
	すもも	3	10	3	1	2		33%
	つつじ	4	7	2		2		0%
	つばき	2	2	2	1	1		50%
	ドラセナ	1	1	1	1			100%
	なつつばき	1	2	1	1			100%
	ハイビスカス	3	6	1	1			100%
	はぐまのき	1	1	1	1			100%
	ヘデラ	1	3	1	1			100%
	ぼたん	1	1	1			1	0%
鑑賞樹合計		33	77	24	11	12	1	46%
林木	からまつ	2	2	1			1	0%
	くすのき	1	1	0				
	クロッサンドラ	1	1	1	1			100%
	くろまつ	1	2	1		1		0%
	すぎ	2	4	1		1		0%
	とどまつ	1	1	1		1		0%
	ひのき	3	5	2		1	1	0%
林木合計		11	16	7	1	4	2	14%

品種登録の対象植物と自家増殖へ権利が及ぶ植物種類

[] で囲んだ種類は自家増殖に育成者権が及ぶものとして省令で指定されている種類（23種類）

(注)新法施行後は全ての植物が保護対象となっている(きのこを除く)

植物区分	旧種苗法時代から保護対象となっていた種類						新法施行以降新たに出願のあったもの	
食用作物	稲種	大麦属	えん麦種	小麦種	ライ麦種	かんしょ種	だったんそば種	
	ばれいしょ種	そば種	ソルガム属	とうもろこし種	はとむぎ種	パニカム種	アマランサス	ヒポコントリアクス種
	ひえ種	ひゆ属	あずき種	いんげんまめ種	えんどう種	ささげ種		
	しかくまめ種	そらまめ種	大豆種	べにばないんげん種	らっかせい種			
工芸作物	あさ種	いぐさ種	いのこずち属	えぞうこぎ属	おうれん種	おけら属	おおばなおけら種	
	おたねにんじん種	かのこそう属	からすびしゃく種	桑属	こんにやく種	さとうきび属	ごま種	
	じおう属	しちとうい種	じょちゆうぎく種	ステビア種	せんぶり属	だいおう属		
	たばこ属	茶種	てんさい亜種	とうき種	とりかぶと属	なたね種		
	はっか属	べにばな種	ほうしよう変種	はまぼうふう種	ぼうふう種	ホップ種		
	みしまさいこ種	むらさき種	よもぎ属	ラベンダー属	ローズマリー種			
野菜(果菜)	いちご属	おくら種	かぼちゃ属	つるれいし種	とうがん種	へちま種	しょくようほうずき種	
	ゆうがお種	きゅうり種	すいか種	とうがらし種	トマト種	なす属	カブツカム	シネセ種
	メロン種						きゃべつ	ケール
(葉菜)	アスパラガス属	うど種	からしな種	カリフラワー変種	ブロッコリー変種	キャベツ変種	あしたば種	
	めキャベツ変種	在来なたね等	しそ属	しゆんぎく種	たまねぎ種	たらのき種	からしな×はくさい	
	にら種	にんにく種	あさつき種	ねぎ種	はくさい	ふき種	ケール亜種	
	ほうれんそう種	ふだんそう変種	まこも種	せり種	セロリー種	パセリ種	らっきょう×きいとらっきょう種	
	みつば種	らっきょう種	レタス種				らっきょう×やまらっきょう種	
(根菜)	かぶ	ごぼう種	さといも属	しょうが種	だいこん種	にんじん種	せいようわさび種	くわい種
	はす種	やまのいも属	わさび種				だいこん×かぶ	ヤーコン種
果樹	いちじく種	オリーブ種	かき属	からたち属	かんきつ属	きんかん属	まつぶさ種	
	グアバ種	くり属	くるみ属	ざくろ種	すのき属	バインアップル種	アセロラ種	
	パパイヤ種	ばんれいし属	びわ属	フェイジョア種	ぶどう属	またたび属	きいちご種	
	マンゴー種	すもも亜種	もも亜種、	かんかおうとう種	さんかおうとう種	ちゅうごくおうとう種	パッションフルーツ種	
	まざくら種	マハレブ種	なし属	りんご属	かりん属	マルメロ種		
飼料作物	あかクローバー種	アルファルファ属	オーチャードグラス種	くさよし属	ケンタッキーブルーグラス種	しば属	センチピートグラス種	
	バッファローグラス種	しろクローバー種	スムズフロムグラス種	タリスグラス種	チモシー種	ぬかほ属	ハイブリッドライグラス種	
	パピアグラス種	トルフェスク種	ポウフェスク種	レッドフェスク種	イタリヤライグラス種	ペレニアルライグラス種		
	レッドトップ種	ローズグラス種	れんげ種					
1, 2年草	アスター種	きんぎょそう種	コスモス属	タグテス属	やぐるまぎく属	きんせんか種	そらいろあさがお種	
	ひやくにちそう種	けいとう属	サルビア属	ストック種	すみれ属	テルヒニウム属	つゆくさ種	
	トルコぎきょう種	ペチュニア属	アゲラタム属	イペリス属	かすみそう属	カルセオリア属	ランボデウム	バルドスム種
	クレオメ属	けし属	ゴテチア属	コリウス属	コレオプシス属	シレネ属		
	すべりひゆ属	てんにんぎく属	トレニア属	パーベナ属	ひまわり属	ピンカ属		

植物区分	旧種苗法時代から保護対象となっていた種類						新法施行以降新たに出願のあったもの				
1, 2年草	ペニにがな属 ルピナス属 くささんだんか種 だんぎく種 ゆうぎりそう種	ヘリオプシス属 ロベリア属 くろたねそう種 はげいとう種 はぼたん変種	むぎわらぎく属 わすれなぐさ属 シザンサス種 はなびしそう種	リナリア属 あさがお種 シネナリア種 ひなぎく種	るこうそう属 かいざいく種 スイトビー種 ひま種	ルドベキア属 きんれんか種 せんいちこう種 まるばあさがお種					
多年草	アイリス属 アンズリウム属 しおん属 ペラルゴニウム属 アスカピア属 アローカシア属 ぎぼろし属 スカピオサ属 トリトマ属 フロックス属 ほおずき属 われもこう属 シャスターデー種 ひおうぎ種	エクメア属 ガーベラ属 ジゴカクタス属 ほうせんか属 アステルベ属 おうごんかずら属 くんしらん属 ストレプトカーパス属 のこぎりそう属 ベペロミア属 ほととぎす属 アメリカぎく属 すずらん種 フランスぎく種	グズマニア属 カラソコエ属 スターチス属 マーガレット種 アニコサントス属 オステオスペルマム属 サラセニア属 ストレリチア属 ハールホッキア属 ヘメカリス属 マランタ属 エビフィロプシス・ケルトネ種 たちあおい種 ユーホルピア・ミリー種	チランドシア属 きく種 セントホーリア属 りんどう属 あまどころ属 おだまき属 サンセベリア属 スパシフィラム属 ひつじくさ属 ヘレニウム属 モンステラ属 おしろいばな種 においあらせいとう種 リアサリトプシス・ロセア種	ネオレゲリア属 クレマチス属 なでしこ属 アガパンサス属 あまもどき属 カラテア属 ジキタリス属 せんろう属 ヒロテンロン属 ペロニカ属 ゆきのした属 おもと種 はなとらのお種 りとうわた種	フリーセア属 さくらそう属 ペゴニア属 あざみ属 アルメリア属 カンパニウ属 ジャのひげ属 だいこんそう属 フクシア属 ペントステモン属 リアトリス属 ききょう種 はらん種	かきつばた種 (アイリス属) カーネーション種 (なでしこ属) かすみそう属 (栄養繁殖系) ペチュニア属 (栄養繁殖系)	おりづるらん種 きりんそう種 こまくさ種 たいまつばな種 はえとりぐさ種 やまももそう種 るりとうわた種 アガスタケ キシカーナ種 アガスタケ コルゴザ × アガスタケ キシカーナ種 エキナケア ブルブレア種 ケラニウム ヒマライエンセ × G.クリチアナム種 ケラニウム マクロリスム × G.タルマテイクム種 アキノキリンソウ種 エキサカム アフィネ種 アサリナ ロホスベルナム × アサリナ エルベセツ エビフォルム フランツス種 アストランチア インホルクータ種 エホルブルス ビロサス種 アタナア クリスマミア種 エリンギウム アルビスム × E.プラスム種 アナカリス モネリ種 オオマツヨイグサ種 ステラ コルダータ種 ステラ ハイブリッド種 ステラ プレウイフローラ種 シロアミメグサ種 ステラ ロス種 ツンゴナンサス クリサンサス種 スカエウオウ アムラ種 セネキオ ハイブリッド種 スクテラリア コスタリカ種 セネキオ マクログロサス種 ディアスキア ハイブリッド種 デイサ種 ドロセラ ブルケアナ × D.カヘンシス種 なつしろぎく種 ピデンス トリプリネルフエア種 ピデンス フェルリア種 ブラキスコメ アンガスティア種 ブラキスコメ アンガスティア × B.カルビカル ブラキスコメ アンガスティア × B.マルチフィタ ブラキスコメ セグメント種 ブラキスコメ フォルモサ × B.セグメント種 ブラキスコメ マルチフィタ種 ブラキスコメ メラカルハ種 ひるざきつきみそう種 ブレクランツス エールデンダリー種 ブレクランツス コレオテリス種 ブレクランツス サカタ × P.ヒリアルダ種 ブレクランツス エムラリウス × P.フルテロサス ブレクランツス ハイブリッド種 ポタンウキクサ種 ロシェア コッキネア種 ラメルシア ラクサ種 ラミウム マクラツム種	おきつばた種 (アイリス属) カーネーション種 (なでしこ属) かすみそう属 (栄養繁殖系) ペチュニア属 (栄養繁殖系)	アプテニア コルデアリア種 アヤニア バンフィ種 アルテルナンテラ ホリゲンス種 アンケロア アンガスティア種 イソトマ アキテリス種 イワダレソウ種 エウリオブシス アサナシア種 エウリオブシス ベクティナツス種 エキナケア ブルブレア種 ケラニウム マクロリスム × G.タルマテイクム種 エキサカム アフィネ種 エホルブルス ビロサス種 エリンギウム アルビスム × E.プラスム種 オオマツヨイグサ種 ステラ コルダータ種 ステラ ハイブリッド種 ステラ プレウイフローラ種 ステラ ロス種 セネキオ ハイブリッド種 セネキオ マクログロサス種 ディアスキア デイサ種 ピデンス フェルリア種 ブラキスコメ アンガスティア × B.カルビカル ブラキスコメ アンガスティア × B.マルチフィタ ブラキスコメ フォルモサ × B.セグメント種 ブラキスコメ マルチフィタ種 ひるざきつきみそう種 ブレクランツス コレオテリス種 ブレクランツス サカタ × P.ヒリアルダ種 ロシェア コッキネア種	カリシア エレガンス種 カリブラコア属 ケベルス バビルス種 クラウスタ ホリゲナ種 クワウエア エクサラ種 クワウエア サリガナ種 クワウエラ インファンティフォルミス種 ケラタサス カルカタ種 ケラニウム シュキアナム × G.クリチアナム種 コルデアリア セロアナ種 コンウォルウルス サバティウス種 サンギソルバ テヌイフォリア種 サンビタリーア アウランティ種 しおぎく × デンドランテマ クエストイタ種 ソリダゴ種 ソリダステル種 タツカ ショトリエ種 ダンギク種 ツンベルギア アラタ × グレゴリー種 テイランジア ストリクダ種 デンドランセマ クラブリウス × のじぎく種 ノラナ ハイブリタ種 ブルーデージー種 ピデンス ラエウイス種 ブラキスコメ アンガスティア × B.カルビカル ブラキスコメ アンガスティア × B.マルチフィタ ブラキスコメ マルチフィタ種 ブラチア ヘダンキュータ種 ブレクランツス サカタ × P.ヒリアルダ種 モナルダ ハイブリッド種 ラメルシア ラクサ種
球根類	アマリス種 シクラメン属	アネモネ属 ダリア属	ラナンキュラス属 チューリップ属	アルストロリア属 ゆり属	グラジオラス属 イキシア属	フリージア属 オキザリス属					

植物区分	旧種苗法時代から保護対象となっていた種類						新法施行以降新たに出願のあったもの		
球根類	オランダ化いう属 コルチカム属 ラケナリア属 ほざきあやめ種	カンナ属 シラー属 リコリス属 ロードヒボクシス種	クルクマ属 すいせん属 カラジウム属	グロキシニア属 トリトニア属 ギガンテウム属	クロッカス属 ネリネ属 キルタンサス属	グロリオサ属 ヘジキウム属 ヒアシンス種			
らん類	オンシジウム属 アスコセントラム属 ソフィチス属 リカステ属	カトリア属 エビデントラム属 パヒオベジラム属 リノステリア属	ジゴベタラム属 えびね属 パンダ属 レナンセラ属	シンピジウム属 エリデス属 ふうらん属 レーリア属	デントロビウム属 ホントグロツサム属 ブルサボラ属	ファルパシス属 しらん属 ミルトニア属	うちょうらん種 ふうらん×アスコセントラム種		
観賞樹	あじさい属 ドラセナ属 ぼたん種 イレックス属 カルミア属 さるすべり属 チリソけい属 のうせんかざら属 ピラカンサ属 ポローニア属 ユッカ属 クロトン種 なんてん種 まさき種	かえで属 ハイビスカス属 ロードデンドロン属 うつぎ属 かんのんじゆる属 さんたんか属 つけ属 のぼたん属 ふじ属 まんさく属 ランタナ属 このてがしわ種 ねむのき種 まんりょう種	さくら属 ばら属 アカシア属 えにしだ属 きょうちくとう属 しもつけ属 どうだんつつじ属 ばいかうつぎ属 ブッドレア属 めぐみ属 れんぎょう属 ゴムのき種 はぐまのき種 むらさきはしどい種	つばき属 ボインセア種 アペリア属 エリカ属 くちなし属 すいかざら属 とさみずき属 ひいらぎなんてん属 ブバルディア属 もくせい属 ろうばい属 じんちようげ種 ブーケンビレア種 やつで種	なつつばき種 オランダしゃくやく種 いちい属 かなめもち属 くらら属 たにうつぎ属 とべら属 あおき種 せんりょう種 なんきんはぜ種 やまぶき種	せんねんぼく属 しゃくやく種 いちび属 カリステモン属 コルヌス属 チボウキナ属 ねずもどき属 びやくしん属 ぼけ属 やなぎ属 あせび種 なんきんはぜ種 まおらん種	あすなる種 しきみ種 においむらさき種 アメリカ×グランディア種 インドボダイジュ種 オオバナソケイ種 ギョリュウバイ種 ケアノス グリセウス種 コルムネア ヒルク種 セルリア フロリダ×ロセア種 デイクコカ エレガントイサマ種 ハーデンベルギア ヴイオラ種 ハスベロジギス ミルトイデス種 ボリスキアス バルフォリア種 ルクリア属 レケナウルティア フォルモサ種 ローズマリー種	いとすぎ種 せつこうぼく種 ぼたんくさぎ種 アマミヒイラギモチ種 ウエイゲラ種 カジイチゴ種 クフェア ヒツピフォリア種 ケトステイグマ ウイルモティアヌム種 サンユウカ種 ソネリラ ピクタ種 ドウランタ レベンス種 ハマヒサカキ種 ハスベロジギス ミルトイデス×H.デミディアタペロスキア アトリアリソフォリア種 ユーホルビア レウコケファラ種 レケナウルティア ビローバ種 レケナウルティア フォルモサ×R.ビローバ種	こだちやはずかざら種 せんだん種 アデニウム種 アメリカデイゴ種 エゴノキ種 キダチチョウセンアサガオ種 クワエア エキサラ種 ゲッケイジュ種 シャシヤンボ種 ソゴ種 ナナカマド種 ハンカチノキ種 レケナウルティア ビローバ×R.フォルモサ種 レプトルムム リハルジエ種
林木	いちよう種 きり種 あかまつ種 メセコイ種	いぬまき種 くすのき種 えぞまつ種 りゅうきゆうまつ種	きはだ属 けやき種 くろまつ種 まだけ属	こなら属 やまも種 すぎ種	たぶのき属 からまつ属 とどまつ種	はこやなぎ属 あかえぞまつ種 ひのき種			
しだ類	アジアンタム属	いわひば属	たましだ属	ちやせんしだ属	レーザリーフアン種				
せんたい類	しもふりごけ属	しらがごけ属	すぎごけ属	たちごけ属	はりがねごけ属				
藻類	あさくさのり種 おきなわもずく属	すさびのり種	あおのり属	あおさ属	こんぶ属 わかめ属				
きのこ	あらげきくらげ種 くりたけ種 なめこ種 まいたけ種	きくらげ種 くろあわびたけ種 ぬめりすぎたけ種 むぎたけ種	うすひらたけ種 しいたけ種 はたけしめじ種 やなぎまつたけ種	えのきたけ種 しろたもぎたけ種 はたけしめじ種	たもぎたけ種 ひらたけ種	つくりたけ種	おおひらたけ種 エリンギ種 ひめまつたけ種 やまぶしたけ種	ぶなしめじ種 きのこはいずれもH10法改正時に追加指定	